第３回　北九州市自転車活用推進計画検討会
議事要旨（案）

日　時　：令和８年１０月２６日（月）１０：００～１２：００
場　所　：北九州市役所本庁舎　３階　特別会議室Ａ

出席者　：

【構成員】　（五十音順、敬称略）

	氏　　名	所　　属
1	内田　晃	北九州市立大学　教授
2	河邊　政恵	株式会社リバー不動産　代表取締役社長
3	寺町　賢一	九州工業大学大学院　教授
4	濱田　千夏	NPO 法人 I－DO　理事
5	藤重　めぐ美	北九州市 PTA 協議会　副会長
6	藤本　幸彦	サイクリングチーム　Blue　Grass
7	山野内　聡香	北九州市立大学　学生（公募構成員）

【オブザーバー】　（五十音順、敬称略）

	氏　　名	所　　属
8	川元　真介	福岡県警察本部交通企画課　課長補佐
9	友成　啓太	福岡県警察本部交通規制課　課長補佐

議　事　：１．開会
２．北九州市自転車活用推進計画見直し（案）について
３．意見交換
４．閉会

議事内容：◎市民意見募集（パブリックコメント）の結果報告及び見直し（案）への反映について
◎今後のスケジュールについて

検討会の主な意見

【市民意見募集（パブリックコメント）の結果および見直し（案）への反映について】
［自転車利用の促進に関する情報発信の充実について］

構成員
・市内の有料自転車駐車場が 24 時間利用になったことや来月 11 月に開催される「サイクリングデイ北九州空港」のイベント情報が広報されていない。
・全ての情報を「スマートサイクルライフ北九州」で発信するのではなく、予算と体制の制約を踏まえ、役割分担を明確にし、実現可能な範囲に集中すべきである。
・特にサイクルツーリズムなどイベント系の情報は、民間のサイトや SNS に委ねるべきである。

構成員
・計画本編における「自転車利用の促進に関する情報発信」の項目について、すべての情報発信を市が担うのではなく、民間のサイトや SNS 等と役割分担しながら発信していくといったニュアンスの内容に修正することを事務局で検討することとしたい。

構成員
・何をもってサイクルツーリズムと謳うのかによるが、観光地を巡るのに、自転車を使って時短するというのもサイクルツーリズムに当てはまると考える。一方で、例えば、門司港から遠賀の方まで行く長いコースのサイクリングの中で、要所の観光名所を楽しむこともちろんサイクルツーリズムである。
・一般的な観光の場合、移動が歩きだときついときに、移動手段の一つとして自転車を利用する人が大半であると思う。目的別にサイクリングルートの紹介することでユーザーが求める情報に辿り着きやすいサイトになると考える。

構成員
・行政がリアルタイムの情報を全て集める手間を考えたら、民間に委ねる方が効率的である。今後 5 年間を通じて「情報発信のあり方」を検討していく旨の文言を追加してはどうか。
・市はマナー、ルール、法改正への対応といった公的な役割を果たせばよい。

【市民意見募集（パブリックコメント）の結果(No.4)について】

構成員

・守恒小学校や、モノレールの守恒駅方面への朝の混雑に関する意見があるように、片側一車線に矢羽根を無理やり設置している場所で時間帯によっては混雑し困るケースは多いと思う。

・時間帯を区切り、混雑する時間帯については、マイカーを迂回させ、自転車と人の通行を優先させることは、事故の危険を回避する上で有効ではないか。

オブザーバー

・車両通行禁止の規制については、実際の現場における通行量（車・自転車・歩行者）、地元の意見、過去の事故状況等で判断することになる。

構成員

・環境の変化に合わせて実現の可能性があるところは、地元と検討していく必要がある。

・自転車や自動車が集中して、歩行者の安全性が脅かされるところは検討していかないといけないが、今回の見直し計画の中に書くまでには至らないと考える。

【市民意見募集（パブリックコメント）の結果(No.11)について】

構成員

・「公共交通（特にバス）が意識されていないように感じる。バスの停車での事例も掲載すべきである。」という意見に対し、市の考え方が、「適切に整備を行っている。」となっており、意見と回答が噛み合っていないと思われる。

・ハード面の工夫であればネットワークの項目に、啓発であれば安全啓発の項目に、対応事例を計画本編に盛り込んではどうか。

・計画本編に記載しないのであれば、市民意見募集の結果の「市の考え方」の欄で詳細に説明を追加していただきたい。

事務局

・市民意見募集の結果の「市の考え方」の欄で説明を追記する形で対応したい。

[総括]

構成員

・ここまで出た意見を踏まえ、事務局にて市民意見募集（パブリックコメント）の結果および見直し（案）を修正する。

・修正内容を構成員の方々に再度確認いただき、最終的に事務局と座長で最終確認し、正式な決定とする。